

北 どりくろあ

第7号 2016年10月1日（毎月1日発行）

「いづれにも輝く笑顔を一！」

庄原こどもミュージカル

今年も、こどもミュージカルの季節がやってきた。10月23日（日）に、庄原市民会館で「ピーターパン」が上演される。今回で十七回目の舞台となる。

スタートしたのは二〇〇〇年、「いじめ」という陰湿な言葉が、新聞やニュースで毎日のように報道されるようになっていた。地元のこどもたちの暗い表情に危機感を抱い

たのは、庄原保健センターの保健師、保村深雪さん。こどもたちを元気にしたい、こどもたちの笑顔を見たい、そんな思いで企画したのが「庄原こどもミュージカル」だった。

先例があった。ボディートーク協会会長の増田明氏が、大阪で開催している「こどもミュージカル『星の広場』」こどもたちが内に秘めている

本来の感性を導き出して、個性豊かな人間に育てることを目的としている。ちなみにボディートークとは、体の異和感や痛みなどの「内なる声」に耳を傾け、五感をよく働かせて、生命力を活性化しようというもの。そのため体系化したプログラムが確立されている。つまり、こどもミュージカルのレッスンや舞台が、ボディートークの実践の場になっている。

保村さんの呼びかけに賛同したのが、川北町で児玉医院を開いている児玉節医師（写真はカープとのコラボTシャツを掲げる児玉さん）。庄原ロータリークラブの会員だった児玉さんも、親として、医師として、こどもたちの現状に危機感を抱いていた。少子化で遊び相手もない。こどもが楽しいことを企画したら、お母さんも元気になる、もつとこどもを産みたいと思うのではないか。請われて、実行委員長に就任した。

しかし、実行委員のメンバーは教師、公務員、主婦、保健師、医師……、素人ばかりだ。最初の会合の議題は「こどもミュージカルを本当にやるかどうか」だったという。増田氏のスタッフの全面的なサポートを約束してもらったが、予算は五百万円で一般公募のこどもが五十人は必要。何の後ろ盾もなく、すべてが手探り、手作りなので、費用も参加者が分担する必要がある。はたして、こんな田舎町のイベントに、そんなに応募者が集まるだろうか。

こどもたちのいい顔が見たい、という熱意が、不安を凌駕した。中国新聞庄原市局の支援を得て、新聞記事やチラシで参加者を募集、体験レッスンには百二十四人のこどもたちが集まった。最終的には、こども八十人、大人二十人が「ピーターパン」の舞台に立った。

前日のリハーサルでは、踊りは委縮してセリフを間違え、声小さく散々だったが、公演の舞台では見違えるような出来だった。こどもたちの目がキラキラと輝いている。レッスンだけでは決して味わえない、観衆を前にした舞台の魔術である。公演は大成功だった。



ちに少しずつ手足が伸びるようになり、大きな声が出せるようになる。表情が豊かになって、自分に自信が持てるようになる」

児玉さんは、ドクターの視点でも、こどもミュージカルの効果を高く評価している。そして、自身も俳優として舞台上に立つことで、ボディートークを体感している。

こどもミュージカルは、こどもたちの個性豊かな人格形成を目的としている。週一回のレッスンの後でアンケートを実施するなど、こどもが孤立しないように、問題点はないかどうか細かくフォローしている。

「学校に行くのが嫌で、登校拒否寸前だった子が、こどもミュージカルに参加することで元気になりました」

「うちは一人っ子なんですけど、練習で年下の子の面倒をみるようになって、お兄ちゃんらしくなりました」

今年で十七回目を迎える「庄原こどもミュージカル」だが、参加したこどもたちはもちろん、父兄の評価も高い。

存続の危機は何度もあった。少子化の影響もあって参加者が減少、公演の費用がなかなか賄えない。二年前には今年が最後の公演、そう覚悟して新聞記事で発表した。広島カープの松田元オーナーから呼び出しがかかった。

松田オーナーは、以前より「庄原

こどもミュージカル」の趣旨に賛同、支援してきた。カープとこどもミュージカルのコラボTシャツを作成して寄贈、チケットと一緒に販売することで運営資金を援助。また、こどもミュージカルのメンバーを球場に招待、観衆の前で踊りを披露することで宣伝にも一役買っている。今年も7月31日(日)のベイスターズ戦の始球式で、こどもミュージカルのメンバーが登場、マツダスタジアムの夏の風物詩になっている。「せっかくここまで頑張ってきたのに、このまま地元の宝を失くしてもいいのですか?」

球団消失の危機を何度も乗り越えてきた「市民球団」のオーナーの言葉はずしりと響いた。松田オーナーの助力もあって、運営資金にもメドがたち、こどもミュージカルの存続が決まった。

今でもこどもミュージカルは、市井の有志の実行委員会や支援スタッフの熱意によって支えられている。

「こどもたちのいい顔がみたい」、その熱い思いだけでこの一大イベントが十七年も継続してきたことは、ある意味、奇跡的なことだろう。郷土の一員として、この夢舞台がいつまでも続いてくれることを心から願う。

【お問い合わせ】

庄原こどもミュージカル実行委員会
☎090・2006・6982

郷土の本棚①

「ふるさと」の「備北地方」方言辞典」 竹島薫著

「幾つかの遺産の中に生活をしていく上でのことばもある。「方言」といわれる。」

本の巻頭に、著者はそう書いている。その貴重な文化遺産である「方言」が、時代や生活の変化によって、すでに消えてしまったものや、消えてゆこうとするものがある。それをできうる限り後世に残したいと記録した労作である。

読んでいくと、ああ、なるほどなと頷く方言がある一方、こんな言葉があったのかと驚くことも多い。テレビ番組で、沖縄のおじい、おばあがしゃべる言葉を聞いて、まるで外国語のようだと思つたことがあるが、どうしてわが備北地方も負けていない。そのいくつかを紹介してみようか。

「あきやすのほれやす」、秋ナスを連想してしまうが、「何にでも手を

出すがすぐに飽きる人」。自分のことをいわれているようで耳が痛い。「あんごー」は阿保、間抜け。

「いごいご」は今でも使う言葉で、「じつとしていないで体を動かさずぐずぐずすること。「いごまご」ともいうそうだが、これはあまり記憶にない。

「いごーがんぎー」となるとまったく理解不能で「曲がりくねっているようす」。雁木と関係があるのだろうか。

「いなご」はなんと、タガメのこと。「おにむし」ともいったらしい。

「いぬのへぐさ」や「いぬのへひりぐさ」はドクダミのことで、感じが出ています。

「おしまいです」は「こんばんは」の挨拶。

「おだやかす」は穏やかではなく「そのかす」。

「おらぶ」は「叫ぶ、大声をあげる」だが、「おらんおらんばー」は「イナイナイバー」の赤ちゃんをあやすときの言葉。

今回はア行だけ。機会があれば、また他の方言も紹介してみたい。

発行は平成二十二年、発行者は「ふるさと方言研究会」。



森鷗外『最後の一句』

子どもの知恵が救った命

森鷗外の「最後の一句」は短い作品です。漢字の多い文章なので、私も大人になってから読んだのですが、少女の頑（がん）とした覚悟が、父親の命を救うという物語の筋が、強く心に残っているので紹介します。

森鷗外といえば「山椒大夫」「高瀬舟」や「雁」といった作品を聞いたり、読んだりしたことがあるでしょうが、この作品には気づかない人が多いのではないのでしょうか。鷗外が晩年に近いころの歴史小説の一つです。

舞台は江戸時代の中ごろ、徳川吉宗の享保改革のすぐ後です。享保改革というのは、町民の声を聞く「目安箱」を置いたり、町奉行大岡越前が活躍したりした改革です。

大阪の船乗り業の主人が、積み荷の不正で捕らえられた後、「三日間さらした上で斬罪」との立て札が立ちます。知らせを立ち聞きした16歳の長女「いち」はその夜、寝床の中で「自分には殺させぬようにする」とが出来る」と思い、起きだして「お

奉行様」に出す願書を平仮名で書き上げました。「お父つさんを助けて、わたしたち子供を殺してください」

した。願書をみて奉行は、不格好な文字だが、道理が通っていて、大人でもこれだけの短文で、これだけの事柄を書くのは容易ではあるまいと思うのでした。大人が書かせたのではあるまいか、お上（かみ）をあるまいか、どる横着者のしわざではあるまいか

また読んでみたい本⑦

少年少女たちへ

音谷 健郎



【森鷗外】

世界の古典文学にはたくさんの名作があります。そんな名作の中から筆者の心に残る作品を今の少年少女たちにも読んでもらいたいと思い、毎月1冊ずつ紹介していきます。

第7回目は森鷗外の『最後の一句』です。もし興味を持ったらぜひ読んでみてください。

筆者紹介：1944年、旧・庄原町生まれ。新聞記者、大学講師を歴て現在、庄原市東本町在住。大阪文学学校講師

やせた少女ですが、少しも気後れすることなく一部始終を申し述べたと書かれています。

最後に「身代わりを聞き届けたら、お前たちはすぐに殺されるぞ。父の顔を見ることは出来ぬが好いか」と念を押されます。いちは、「よろしゅうございます」と冷やかな調子で答え、「お上の事には間違いはございませんまいから」と言い足したのでした。

この一言が、奉行に衝撃を与えました。奉行は「険しい目」となり、「この子の先々が怖ろしい」とささやいたのです。でも、主人は死罪を免れ、「追放」に減刑されました。鷗外は、裁きは孝女としてのいちへの同情は薄かったが、「当時の行政司法」の機関が自然に動いて、いちの願いはかなったと、説明しています。

いちを中心にあら筋を紹介しましたが、皆さんはどう受け止めましたか。思い詰めた強さ？ 大人を驚かす冷静さ？ いちの行動が生き生きと描かれ、考えさせられます。

これを書いた鷗外は、政治的に色々あって、軍医のトップである陸軍医務局長（軍医総監）職の辞任が取りざたされた時期の作品です。だから、鷗外が現今の至らない官僚を批判した書と読む人もあります。

というものでした。ただ、長太郎だけは殺さないでください、あれはお父つさんの本当の子ではないからとも書いたのです。

明け方、14歳の妹と8歳の弟を起こし、12歳の長太郎を残し、こっそり3人で大阪西町奉行所へ向かいま

とさえ思ったのです。

翌日、奉行所の白洲には、子供を連れた主人が、座っています。TVドラマの「遠山の金さん」でおなじみの場面とそっくりに描写されています。長女いちも尋問されました。いち、16歳にしては少し幼く見える、

二体並んだ石像の前に跪いて、小柄な爺さんが合掌している。畑のあぜ道にあるこの石像に、仕事帰りに祈りを捧げるのが日課だった。

その石像の頭頂部には楕円形のでっぱりがあり、今は摩耗しているが、馬の顔が彫られていたらしい。馬頭観音だと鉄じい教えてくれた。牛馬の守護神なのだそう。昔はどこの農家でも牛を飼っていて、農作業の貴重な労働力だったという。

(今はおれが牛の替わりか)
子供の頃から体が大きかったおれは、「おいしいものがたらふく食べられる」と相撲部屋にスカウトされて、中学校を卒業してから内弟子に入った。一年もたなかった。あとはもうグダグダで、力仕事の臨時雇いを転々とした。

「明日もいい天気のようにじゃのう」
鉄じいがそういって、皺だらけの顔で笑った。おれはうらめしそうに、夕闇の空を見上げた。南十字星が輝いている。明日は日曜日だが、仕事を休むのは雨の日と祝日だけ、それがこの家の、いや鉄じいの規則なのだ。

「うちは浄土真宗じゃぞ。なんでキリストさんが死んだ日に休まんとい

けんのじゃ」

日曜日は休みじゃないんですかと抗議したおれに、鉄じいは憤然と言ったものだ。日曜日がどうして休みなのかはおれもよく知らないが、毎週、毎週、キリストが死んでいるはずはないだろう。それでは、いくら復活してもキリがない。だが、日曜日に休めるのなら、クリスチャンになっ

畑仕事をしていても平然としている。中身はサイボーグなのではないか、半分呆れて、もう半分は尊敬をこめて、鉄じいと呼んでいる。

いつものように、おれが薪で五右衛門風呂を沸かして、鉄じい、おれの順番で湯に入った。一番風呂で、とびつきり熱いお湯が好きなのだ。子供のように負けずらいで、意

の身の上だった。

晩飯のあとで、おれはおずおずと切り出した。この飯はとびきりうまい。新米と漬物だけで何杯もおかわりできるが、採りたての旬の野菜が絶品だった。自家製の味噌をつけてそのまま食べてもいいし、味噌汁や煮物、焼き物といった手間のかからない料理で十分だった。

「明日で試用期間が終わりますが……、その前に話しておきたいことがあります」

晩酌の焼酎を飲む手を休めて、おれの告白を黙って聞いていた鉄じいの顔が、次第に厳しくなった。話を聞き終わると、しばらく腕組みをして考えていた。そして、ぐびりと焼酎を飲み干して、豪快に笑った。

「はい、日本養子支援協会です」

録音のような、淡々とした声が聞こえてきた。

大阪ミナミにあるワンルームマンションの事務所を訪れたときは驚いた。黒木と名乗った人物は、まだ二十歳前にしか見えない童顔の優男だった。一人で立ち上げたベンチャー・ビジネスなのだという。

おれのような借金で首が回らないやつを借金を肩代わりして、その人

「馬頭さん」

あきふゆひこ
亜木冬彦

現代御伽草子⑦

※県北の歴史や風物を題材としたファンタジー小説です。

てもいいとおれは思った。

鉄じいは、おれの心の中での呼び名だ。本当は哲治(てつはる)という。野球の打撃の神様、川上哲治と同じだと自慢しているが、おれが知らないというところがっかりした顔をした。

もう七十を過ぎてはいるはずだが、とにかくタフなのだ。背が低くてガリガリに痩せているのに、一日中、

地っ張りのところはあがるが、それに馴れてしまえば、裏表のない素朴な人間だった。問題なのは、馴れるまで我慢できるかどうか。大概の者は無理だろう。おれには、我慢せざるを得ない理由があった。

鉄じいに身寄りはいない。これは調査済みだ。一人息子は子供の頃に病死して、妻とも別れて、天涯孤独

間に合った養子先を斡旋する。借金の返済方法は自由である。合法、非法を問わない。一括払いでもいいし、金利を払いながら長期返済でもかまわない。

逃走は許されない。受取人の欄が空白の保険契約書にサインさせられた。契約違反の場合は事故死、あるいは病死の保険金で清算する、らしい。後ろにでかい組織が潜んでいる、おれはそう判断した。

「養子の法的手続きが終了しました」
おれが報告した。
「おめでとございませう。それでは、



返済方法はどうしますか？」

「当面は、月々五万の長期返済でお願いします」

「わかりました。それでは契約書を作成して郵送しますので、記名、捺印して返送してください。住民票と印鑑証明書が必要なので、忘れないようにしてください」

感情のない声でそう告げて、電話は切れた。おれは、鉄じいとのやり取りを思い出していた。

「それで、養子になつたらわしを殺して、そっくり財産を盗むつもりだったんか？」

おれは否定しなかった。いや、否定できなかった。道路拡張による土地買収で、鉄じいの銀行口座には三千万円を超える金が入っている、はずだった。腐った空気を吸い続けていれば、頭の中まで腐ってしまうらしい。

「だから、養子の件はなかったことにしてください。この話には裏があります。やばい連中が絡んでいます」

おれはそういつて頭を下げた。

「おもしろじゃねえか。やれるもならやってみい。わしも若いころは極道やった。悪党やった。ほうじゃ、大悪党よ。実はの、あの馬頭さんの下にはの、わしが殺した鉄砲玉が一

人、瞑つとるんで。わしを殺る気なら、覚悟してかかってきんさい」

赤ら顔でそうわめいた鉄じいに、おれは恐れ入ったと平伏した。あの馬頭観音の裏には、鉄じいがかわいがつていた「文太」という犬が葬られていることを、おれは近所の婆さんから聞いて知っていた。子供のようにならぬ嫌いなのだ。

（それとも、おれのことを心配して……）

これからは、おれが番犬になる。おれには、あんなにうまい米や漬物は作れない。これからも、うまい飯を食っていたい。そのためには、鉄じいに元気で長生きしてもらう必要がある。

（でも、教会には行ってみるかな）
クリスチャンになることを、おれは真剣に考えている。

※「馬頭観音」石像の上部に馬頭を刻んであるのが特徴。「馬頭さん」と親しみを込めて呼ばれている。西城から庄原にかけて数多く存在するが、これは中国地方が牛の産地で、牛は「農宝」として大事にされたことが関係している。馬頭観音は牛馬の守護神として尊崇されていた。（ガイドブック「宮内の史蹟」参照）

野菜の店頭無人販売はじめました! 新鮮野菜がたくさん入って1袋百円。

・無料本、百円本、50円本などのコーナー。
無料の漫画ルームもあります。

まつの古本屋さん
どろ書房

古書探索の旅に、お立ち寄りください。

- 庄原市中本町2-1-10
- 定休日：毎週火曜日 / 第1・3月曜日
- 営業時間：9:30~19:00
- TEL:090(9913)3052

※広島銀行庄原支店の手前（三次側から）※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

<広告料1回 5,000円 半年間 20,000円 1年間 35,000円>



どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

「書店ガール3」

碧野圭 著 PHP文芸文庫

大手書店に勤務する女性を主人公にした人気シリーズの第3弾。わたしはこの本から読み始めて、すぐに1と2を購入した。大手書店チェーンの傘下に入った仙台の老舗書店が舞台。その書店のリニューアルを、エリアマネージャーである西岡理子が任されるのだが、そこには生え抜きの男性書店員がいて……。

東日本大震災の傷跡が生々しい被災地の現状を、真正面から描いている。それでいて、エンターテインメントの面白さを損ねていない、いや、極上の娯楽作品に仕上がっている。本のか、文化のかというものを、あらためて再認識させてもらった作品。書店の棚の構成や特設コーナーなどの内実も興味深い。



「夜這いの民俗学」

赤松啓介 著 明石書店

ショッキングなタイトルだが、内容は現地での聞き取りや体験取材による学術的なルポ。「夜這いは、戦前まで、一部では戦後しばらくまで、一般的に行われていた現実であり、実に多種多様な営みであった」と作者は書いている。

村落共同体（ムラ）での性教育の実態が詳細にレポートされているのが興味深い。若衆入りをする男子は、仏堂に集められて、寡婦や年配者の女性から「体験学習」

する。娘の場合も初潮を迎えたら、親が年配者に水揚げの依頼をする。性格のおだやかな熟練者に娘を委ねることで、女の体にしてもらう。性をタブーにして妄想を肥大化させてしまった現代人の「モラル」に、一石を投じる本である。



「BECK」

ハロルド作石 著 講談社

元気がなくなったときに読む漫画がある。無名の日本のロックバンドが何度も解散の危機を乗り越えながら、世界的な人気バンドにのし上がって行く物語。こうして粗筋だけ書くと、ステレオタイプのサクセスストーリーだが、濃密な青春群像になっていて、作品の中にぐいぐい引きこまれてしまう。全部で34巻あるのだが、読み始めたらもう止まらない。



「たくさん尊敬してる人はいるけど、おれはおれにしかかなれないよ」、主人公のコユキの言葉が胸にじんじん響いている。自分というものをまた信じてみようかと思えてくる。徹りずにまた少年のように、夢を追いかけてなくなってしまうのだ。「どらくるあ」もその一つです。

《サンプル広告》

10/23(日)
庄原市民会館
大ホール

ピーターパン

庄原こどもミュージカル
脚本・指導・演出 / 増田 明

第1公演 13:30~15:00 / 開場 13:00 第2公演 16:00~17:30 / 開場 15:30

入場料 一般・小学生以上 **1,000円** 全席自由 未就学児以下無料

主催：庄原こどもミュージカル実行委員会 お問い合わせ：☎090-2006-6982
チケット取扱所：

- ジョイフル2F サービスカウンター ●小池書店 ●庄原市民会館 ●サングリーンサービスカウンター
- 庄原市西城保健福祉センター「しあわせ館」●児玉医院（川北町）●庄原・三次市内の中国新聞販売所

どらくる俳壇

花野道直進すれば黄泉の国

近藤 昌平

絵手紙をはみ出て向日葵届きけり

原博己

吠えること無き老犬や暮の秋

片岡 正人

雨降りて不死鳥のごと里芋芽

隆愚

彼岸花失楽園の残火かな

赤川 冬人

※投句を歓迎します。

投稿&寄稿

「嘗ての農場も今は」 富久光

借家住まいもいつしか半世紀近くなった
日当たりよく 見晴らし良く 風通しよく
申し分ない環境に恵まれて気がついた時は
真正正銘の浦島太郎の心境になっていた
元々牧場だったこの辺り
ひところは乳牛三十頭 養豚常時六百頭
百年の歴史ある農場だった
近年周辺に住宅が増え人が増え
環境問題が厳しく問われるようになった
農場は徐々に縮小され、遂に閉鎖された
市内に県立大学が開校されると
牛舎豚舎が取り壊され学生寮に建ち変わった
柵道沿いのアカシアの木が伐られ

農具庫も取り壊された

秋風が吹き始める頃になると

農具庫のトタンがバタバタ鳴って

その度に、秋の深まりを感じたものだ

この季節 牧場は、虫の音で

隈無くうめつくされるのだった

虫の音の星の数ほど牧の夜は

こんな匂が瞬時に浮かんだ

緩やかな傾斜の牧草地は、イタリアンの緑が

風の吹くたび陽の当たるたび艶やかに波打ち

輝いていた

牧草地には厩舎と馬場が整備された

以前に比べて虫の数がめっきり少なくなった

今月のどらさん



この絵をブックカバーにしています。

絵・風太

虫の音も単調になった

嘗て農場全体を揺り動かすような

幾万の虫の声は聞かれなくなった

広い牧草地を揺るがし地底から沸き上がって

くるような荘厳な響き

そして……

一瞬時を遮断したかのように止まる虫の声

自然の調和の不可思議さ

思わず息をのんで立ちすくむような

あの虫たちの競演の季節は一体何処へ消えた

のだろうか。

どら書房委託販売コーナー

★「天馬書林」

新書の教養書と戦争関連本、ノンフィクションが充実。

★「サワちゃん文庫」

中国、日本の歴史書、思想書が中心のラインアップ。

各専用棚で好評販売中!

庄原地方を何故、「永江の里」と呼ぶのか、ずっと気になっていました。そこで、「芸藩通誌」「永江の庄から庄原町へ」「解説・庄原雑録」など多数の文献を参考に、調べた事を纏めてみました。

読者の方で、他に参考になる事があれば、ご教示をお願いします。

一、庄原に「永江」と名のつくものは。

民謡「敦盛さん」の歌詞に出てきます。ジョイフル永江、永江太鼓、永江まんじゅう、永江ニュース(某施設の機関紙)、永江姓の家(掛田町)。

二、結論を先に。

永江権守正房(ながえごんのかみまさふさ)の統治下の庄園であった為、「永江の荘(庄)」と呼ばれていました。

※庄園は庄園とも書きます。七四三年に庄園が出来はじめました。奈良時代(七一〇年〜七九四年)から室町時代(一三三八年〜一四八八年)にかけて、貴族や寺社が私有した土地のことです。

三、永江権守正房は、どんな人か。

宮内八幡神社の社伝、神官田鍋家

文書によりますと、大同元年(八〇六年)三月十八日、尾張の国(現・愛知県稲沢市国府宮町大宮)の大国魂(おおくにたま)神社の祠官、永江権守正房が来住し、備後一宮吉備津大明神を、備後国三上郡宮内村小丸山に勧請御鎮座されたと伝えていきます。

以後、数十代にわたり宮司として神社を守ってこられました。何時

庄原名称探訪

「永江の里」の由来について

寺岡隆行

の頃から永江姓が田鍋姓に変わりました。理由は不明との事です。

神官田鍋家の裏に、正房の墓だという五輪墓(笠が横に張らずに垂直になっているのが古い形のもの)があります。

宮内、新庄、庄原本町、川手を領地としていました。

応永八年(一四〇一年)三月二十二日に、京都建仁寺(現・京都市東

山区大和路四条下ルにある、臨済宗建仁寺派の大本山)から、庄原の沖家(右近氏)の先祖へ下された文書によると、永江の荘は、京都建仁寺の庄園であった事が解ります。 ※平成十七年一月発行の「庄原市の歴史・通史編」二百五十頁〜二百五十八頁に、永江荘の記事があります。

ここで、宮内にあるお宮と、あつ

所あり(現一か所)、一宮七十末社が鎮座の霊地故に、村名を宮内という様になったとの記述があります。

近隣の八幡神社は、八百年〜九百年位前に出来たものが多いとの事であり、宮内八幡神社は大同元年(八〇六年)と言われていますので、千二百年前であります。

白鳳時代(六五〇年〜六九七年)の軒丸瓦や礎石が出土する神福寺を別当として、社領、寺領ともに百石、計二百石を有し、往古は頗る大社でありましたが、中世兵乱のため、衰退し、本殿は中殿に合併し、下殿は別殿(現在地か)に祀り、別当神福寺の大伽藍も消滅してしまったとい

たと伝えられているお寺について述べてみます。

四、宮内八幡神社について

宮内村小丸山に勧請の神社は、もと、三殿よりなり、上殿(本殿)は

吉備津神社、中殿は八幡神社、下殿は宇賀魂神(うかみたまのかみ)を祀ったとあり、中殿以下の勧請年代は不明と記述してあります。

社殿は、七間四方で、鳥居は二か

帝)の頃の称。

寺院には仁王門がある様に、神社には隨身門がある筈ですが、ここには見当たりません。兵乱で消滅後再建出来なかつたといえます。

社殿は天正八年(一五八〇年)山内城主首藤上野介隆通(すどうこう)のすけたかみち、山内氏)が再建しています。

(以下、次号につづきます。)

《情報 & 原稿を募集します!!》

- 仲間募集
 - 教室 & 講座案内
 - イベント情報
 - あなたの大切な本の紹介
 - ボランティア・ライター(現地記者)募集!
- どらくろあで地元の記事を書いてみませんか?

※応募先はどら書房・赤川まで。掲載は無料です。

『庄原メイプルラジオ』

毎週日曜日
13時～放送中!!

庄原で過ごすパーソナリティ達の何気ない日常の話と地域の情報やゲストを招いて放送する地域密着エンタメ放送!!

YouTube

和家チャンネル:



陶芸教室

どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など
情報掲示板です。

自作のお茶碗で
お茶を飲んで
みませんか?

- 金・土・日曜日開催
- 場所: 県立広島大学前簡易郵便局に併設
- 費用: 一回500円+材料費
- 連絡先: 0824(74)0686 洲沢(スザワ)

— パッチワーク & 染の展示会 —

期間: 2016年9月4日~10月23日

休館日: 毎月第3火曜日。ただし祝日は開館になり、翌日が閉館となります。

場所: はらみちを美術館 (☎0824-53-7021)

住所: 三次市君田町泉吉田 311-3

お気軽にお越しください。

どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載しているので、
ダウンロードしてお楽しみいただけます。

<http://shobara.wix.com/dorakuroa>



発行: どら書房
〒727-0012
庄原市中本町 2-1-10
☎090(9913)3052(赤川)
e-mail: touzin@sannet.ne.jp
年間購読料: 2,000円(郵送費込)

誌面デザイン: ROUTE183
協賛: 九日市愛好会

編集後記

◇出産を繰り返して、子猫を放置して行くノラママ猫がいるのですが、この秋にまた妊娠しているらしい。美人なのでモテるんですね。うちの店頭にもやってきました。餌をあげていたので、仕方なく市役所で捕獲機を借りてきて「ご用」、動物病院で避妊処置をしてもらいました。

◇そのママ猫、今、店の二階にあるわたしの部屋にいます。ノラだったので、ベッドの下にもぐりこんで未だに家庭内別居状態。どら書房の看板猫になってくれる日がくるというのですが。

◇「図書館員ノート」今回は休載します。

◇ついにカープ優勝、今年の秋は楽しみがいっぱいです。

第189回

平成28年

く ん ち い しょうばら 九日市

10月9日 (日)

9:00~13:00

トピックス

★ 庄原シティホールライブ楽団ミニの演奏会

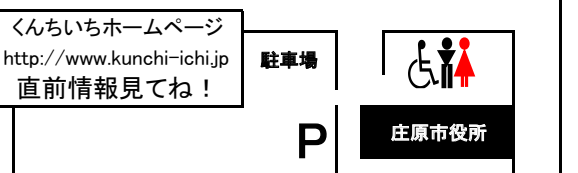
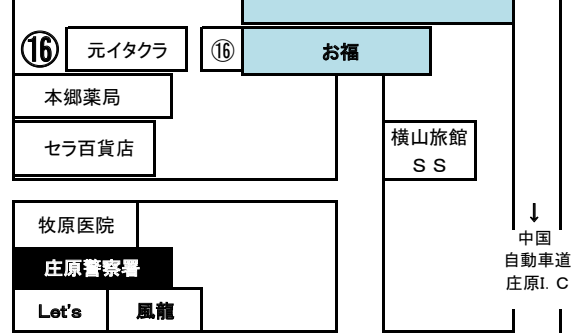
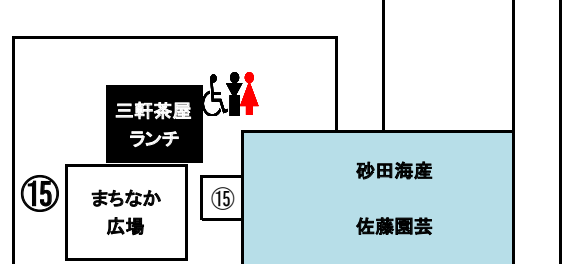
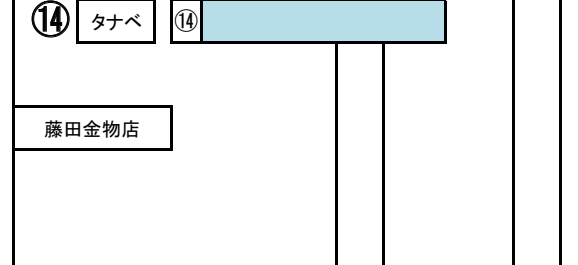
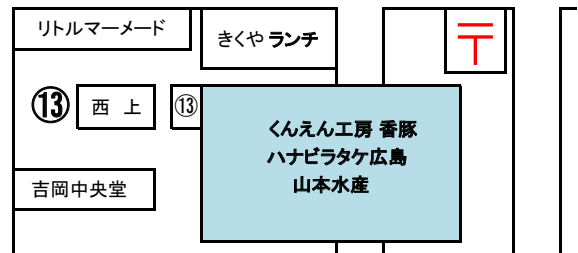
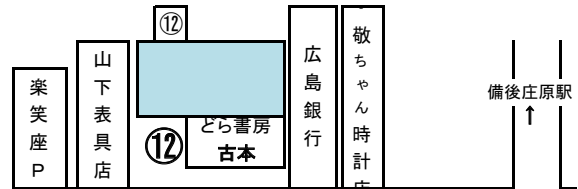
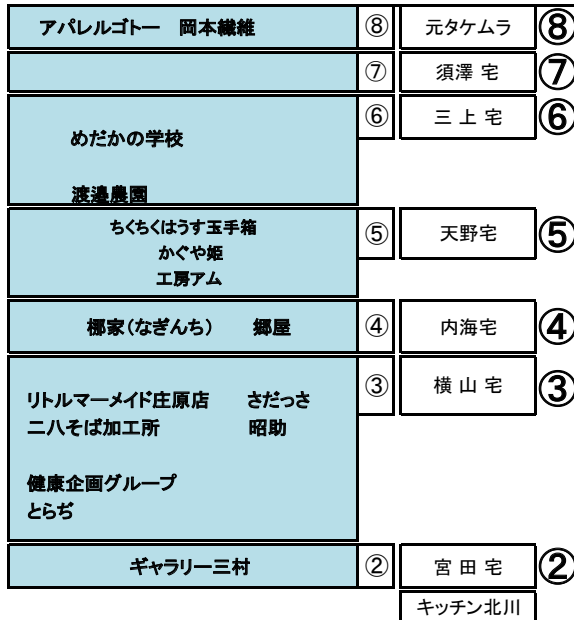
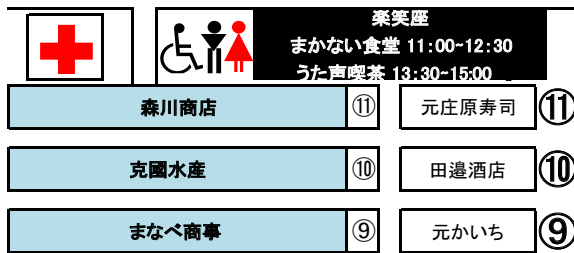
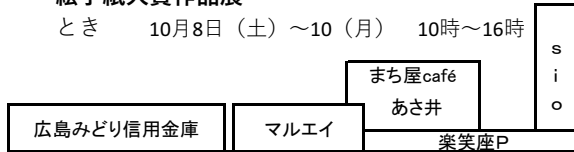
9:00~9:40

★風龍・・・九日市スペシャル! 餃子200円!

★どら書房・・・10月9日はお休みです。

★市民ギャラリー「アート多愛夢」では
絵手紙大賞作品展

とき 10月8日(土)~10(月) 10時~16時



当日の天候により、断り無く
出店者・出店場所は変更する場合があります。

出店申込みは、
【毎月20日締切】 コンパネ 1枚スペース 1,000円~
九日市愛好会事務局
〒727-0013 庄原市西本町 2-1-10 楽笑座 内
TEL / FAX (0824) 72-8285